令和５年１２月市長定例記者会見

日時：令和５年１１月３０日（木）　午前１０時３０分～
場所：射水市役所会議室３０２
報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
　　射水 CATV、庄東タイムズ・ホットライン小杉
当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、道路課長

〇質疑応答の概要

Ｑ１．　アイタウン射水で１２月にかけて大型店舗が４つオープンし、今後も出店の計画がある。現在、週末を中心に周辺の道路の渋滞が見られ、今後の降雪期には、交通障害も懸念される。市では、どのような対策を考えているか。

Ａ１．　アイタウン射水で大型店舗の開業が進み、特に週末などを中心に渋滞が発生している状況である。アイタウンの南側の庁舎に面した市道（北部線）からアイタウンの敷地に入る交差点に、信号の設置を警察へ要望している。ただし、信号の設置は県警で一定の基準を設けており、すぐの設置は難しいと思われる。また、これから降雪時になると、さらに渋滞する恐れがある。状況を注視しながら、適時・適切な除雪を行い、円滑な道路交通の確保に努めていく。

Ｑ２．　ＪＲ城端線・氷見線のあいの風とやま鉄道への経営移管の実施計画案が協議会で了承され、運行本数の増加、パターンダイヤ化の検討をしている。また、ＪＲが１５０億円の拠出金を出すことや、両線の赤字が年間約１０億円という数字も出た。県が圧縮しても約７億円程度の赤字になるとされている。現在の実施計画案と、ＪＲの拠出金をどのように評価されるか。

Ａ２．　昨日、城端線・氷見線の協議会が開催され、城端線・氷見線のあいの風とやま鉄道への移管計画が了承された。沿線４市の皆さんで、かなり協議をして来られたと思う。そうした中で、城端線・氷見線を地域でしっかり支えていき、あいの風とやま鉄道での運行をぜひお願いしたいという思い（計画案）を県が了承し、あいの風とやま鉄道もしっかり運営

していくことにしたのは、大きな判断・決断をされたと思っている。沿線４市で約３００億円の費用を負担し、それに対しＪＲから約１５０億円を拠出するという話があったことについては、一定の気持ちを汲んでいただいたと捉えられるのではないかと思う。

課題としては、様々な効率化を図ったとしても、７億余りの赤字が見込まれることである。活性化・利用促進を考え、できるだけ赤字を縮小していく必要がある。元々沿線の４市は、多くの観光資源や魅力を持っておられる地域である。それらをうまく生かしながら、城端線・氷見線の利用促進に繋げていく取組が求められると思っている。

射水市の立場としては、城端線・氷見線の直通というよりは、あいの風とやま鉄道への乗り入れ本数が増える方がメリットだと考えている。今後詳細を検討されていく際に、ぜひ考えていただければ射水市民の利用も増えると感じている。

Ｑ３．　水戸田地区で食香バラを栽培されてる方とのお話の中で、来年中に射水市のふるさと納税の返礼品に加えてもらえるように頑張っていきたいという話があった。射水市として、ふるさと納税に加える考えや予定があれば教えていただきたい。

Ａ３．　食香バラについては、本市の水戸田地区において、地域の皆さんにご協力をいただきながら、栽培していただいている。今年２年目ということで、規模も少しずつ拡大しながら収穫量も増やしてきており、一定程度の収穫が見込めるようになってきた。食香バラの魅力・可能性ということで、これまで様々な分野や方面から引き合いいただいている。飲食店で使っていただいているものもあり、商品化を図りながら、新たな射水の特産として打ち出していきたい。ふるさと納税の返礼品に加えるためには、魅力ある製品をしっかり作っていくことが大事だと思っている。今後は、６次産業化の取組として栽培生産の体制を整えていただき、商品化を行うところとの連携、販売のためのＰＲなど、関係の皆さんと連携しながらブランド化を図っていく１つの方法として、ふるさと納税の返礼品に加えていくことができればと考えている。

Ｑ４．　今の段階では、まだ正式にふるさと納税に入れると決まったわけではないということか。

Ａ４．　そのとおりである。返礼品については、随時、加えていけるのではないかと思っている。まずは、いろんな引き合いが来ている中で、どの製品が形になってくるのか、返礼品として選んでいただけるような魅力を出していく必要がある。それらを解決した上で、実際に返礼品に加えていくことになる。